

第5章 高齢者の社会参加の推進

第1節 高齢者のクラブ活動活性化の促進

老人クラブ（愛称「いきいきクラブ」）は、高齢者の友愛訪問、ボランティア活動、伝承活動、世代間交流、環境美化、健康増進、介護予防事業等地域で幅広い活動を展開している。

クラブの新設（平成29年度4件）及び各クラブによる勧誘の取組により、2017（平成29）年度の会員数は増加している。

今後も会員増につなげるため、老人クラブの活動等についてチラシを配布する等、広報・周知に努める。

【地区別老人クラブ数及び会員数】

（年度当初）

項目		2015 （平成27） 年度	2016 （平成28） 年度	2017 （平成29） 年度
大田原地区	クラブ数	32クラブ	31クラブ	33クラブ
	会員数	1,274人	1,461人	1,488人
湯津上地区	クラブ数	3クラブ	3クラブ	3クラブ
	会員数	77人	73人	75人
黒羽地区	クラブ数	19クラブ	18クラブ	19クラブ
	会員数	555人	533人	565人
合計	クラブ数	54クラブ	52クラブ	55クラブ
	会員数	1,906人	2,067人	2,128人

1 老人クラブ活動の推進

（1）高齢者のクラブの拡充

現在の老人クラブは、概ね自治会を単位とした居住地域だけの高齢者で組織されている状況にあり、自治会を超えた広範囲の組織化、相互交流ができていく状況にある。

老人クラブ活動の多様化を図るため、従来の概ね自治会を単位とした地縁的な組織ばかりでなく、価値観を共有する高齢者が「地域を越えて横断的な組織活動」ができるよう支援する。

（2）サークル活動の促進

老人クラブのサークル活動について、シルバーコーラス等のサークル活動は単位クラブの枠を超えて、充実した活動を展開しており、今後、こうした多様なサークル活動を通じて、学ぶ楽しさを促進する。

また、従来の老人クラブ会員のニーズと新規加入者となる団塊の世代に属する前期高齢者のニーズは、価値観等の相違からおのずと異なってくることから、単位クラブ間又は他の会員との相互交流を推奨し、柔軟な組織づくりを支援する。

第2節 生涯学習・生涯スポーツの推進

1 社会参加と学ぶ楽しさの推進

高齢者は、自らの経験や知識を活かした地域づくり等、積極的に社会参加活動をする高い意欲を持っており、この高い意欲が社会参加活動への生きがいとなっている。こうした高齢者に対して社会参加の場を提供するとともに、学ぶ楽しさを通じた生きがいづくりを推進するため、生涯学習関連事業との連携を図りながら、多様な学習内容を有する高齢者学級や高齢者向け講座等を紹介することにより、各種情報の提供に努め社会参加を促進する。

また、地域主体の在宅福祉及び地域福祉を支えるボランティアネットワークを確立するため、介護予防事業との連携を図り、前期高齢者を中心に「ほほえみサポーター（ボランティア）」を育成する。

(1) 生きがいづくり講座の充実

「工房わかくさ」、「希望の家」、「佐良土多目的交流センター」の生きがいづくり講座を通じて、学ぶ楽しさを培う。

【受講状況】

2017（平成29）年度受講者数

項目	陶 芸			竹工芸	レザー クラフト	計
	工房 わかくさ	希望の家	佐良土多 目的交流 センター			
定員	40人	35人	15人	20人	25人	135人
受講者数	35人	35人	15人	8人	14人	107人

(2) 地区公民館主催の高齢者学級への促進

高齢者の生涯学習関連事業としての地区公民館主催の高齢者学級等と連携を図り、様々な生涯学習関連事業への高齢者の参加を積極的に促進するとともに、高齢者による自主学級の育成を図る。

(3) 栃木県シルバー大学校の入校の促進

栃木県シルバー大学校は、高齢者の健やかで生きがいのある人生を支援するとともに、地域活動実践者の養成を目指している。市では、広報誌を通じて同校への入校を積極的に推進している。

また、シルバー大学生及び同校のOB会大田原支部との連携を強化し、地域活動等で指導的な役割を發揮できるよう、ボランティア情報を収集し、提供に努めていく。

【栃木県シルバー大学校の入学状況】

項目	2015 (平成27) 年度	2016 (平成28) 年度	2017 (平成29) 年度	卒業生累計
入学者数	22人	22人	21人	421人

2 健康・スポーツ活動の実践

高齢者が自らの健康や体力に応じて安心して親しめるスポーツや、生涯にわたって継続的に実践できるスポーツの振興を図るため、各種のスポーツ大会や普及のための講習会等を市老人クラブ連合会及び市体育協会等と連携を図りながら推進するとともに、高齢者スポーツの多様化を図るため、高齢者向け新スポーツの普及と定着を促進する。

(1) 高齢者スポーツ・レクリエーション活動の推進

各種の高齢者スポーツ大会への参加促進、自主スポーツサークル化への促進を図り、高齢者の交流、体力の維持、健康の増進を目的としたスポーツ活動を推進する。特に老人クラブを中心にニュースポーツの普及を図る。

また、介護予防の視点からも、高齢者ほほえみセンター等において、レクリエーションや筋力アップトレーニング等を実践する。

【大田原市老人クラブ連合会が推奨するスポーツ競技】

①ゲートボール競技	②輪投げ競技
③グラウンド・ゴルフ競技	④ペタンク競技
⑤各地区単位の高齢者スポーツ大会等	

このほか、文化・スポーツ等を通して世代間交流や生きがい、健康づくりに寄与する全国健康福祉祭（ねんりんピック）への参加を支援する。

(2) 高齢者スポーツ環境の整備

高齢者スポーツの環境整備を図るため、各地区にゲートボール場、グラウンド・ゴルフ場の整備を進めてきたが、これからも、高齢者福祉施設の整備等にあわせて高齢者スポーツ施設の整備を推進する。

3 世代間交流と地域振興

本格的な高齢社会を豊かで潤いのある社会としていくためには、すべての世代が互いに認め合い支え合いながら様々な課題を分かち合っていくことが必要であるが、核家族化の進行や生活様式の変化等により、家庭や地域において若い世代と高齢者が身近に接し、相互理解を深めたり知識や経験を伝え合ったりする機会が減少している。若い世代の高齢者に対する慈恵の心を養うとともに、高齢者も社会の重要な構成員として生きがいや役割を持てるよう、多世代にわたる交流事業を積極的に推進する。

第3節 高齢者の就業促進

1 シルバー人材センター

高齢社会が急速に進展する中で、健康で働く意欲と能力を持った高齢者の就業の促進を図ることは、高齢者の生きがいづくりの施策の重要な柱であるため、公益社団法人大田原市シルバー人材センターの充実・強化を積極的に支援する。

第4節 敬老関係事業

長寿を祝福し、敬老の意を表する敬老関係事業については、高齢化の進展に伴い対象者数は年々増加し、本市の財政負担も毎年増加の一途をたどっている。敬老関係事業は、地域の伝統的な慣習を踏襲して実施している。今後も財政状況を鑑み、事業内容等を検討しながら事業を実施していく。

1 敬老祝金・記念品支給事業

毎年9月に本市に住所を有する者に対して、敬老祝金及び記念品を支給する。

2 敬老会

自治会又は自治公民館及び老人ホームが主催する敬老会に対し、75歳以上の敬老者1人あたり3,000円の補助金を交付している。

項目	2015 (平成27) 年度	2016 (平成28) 年度	2017 (平成29) 年度
団体数	176 団体	178 団体	179 団体
人数	9,525 人	9,549 人	9,552 人